委員長

報　　告　　書

平成３０年　２月　５日

泉大津市議会議長

出張者氏名　堀口　陽一委員長
溝口　浩副委員長
田立　恵子　委員
中谷　　昭　委員
高橋　　登　委員
丸谷　正八郎委員
井阪　正信　委員
村岡　均議長　　池辺貢三副議長
櫻井　大樹議会事務局長　松下　良議会事務局次長

下記により出張しましたので、その概要について報告いたします。

記

1.日　　時　平成３０年１月２４日（水）～１月２５日（木）

2.出 張 先　　茨城県取手市議会
埼玉県所沢市議会

3.目　　的　　市議会への住民参加の取組について
（上記市議会の選択は、共に早稲田大学マニフェストランキング上位であるため）

4.報告事項　　別紙添付

報告事項＆所見

１．茨城県取手市議会

①議会報告会ワーキングチームの設置及び活動状況
②議会報告会への住民参加
③取手第二中学校との協同企画
④ワールドカフェ方式による意見交換会
⑤議会だより「ひびき」について
⑥市議会出前講座の開催について

上記内容について、説明を受けた。

取手市の議会改革の特徴は、全国的にみても珍しい事例で議会事務局職員がリーダーシップを取り、改革を進めてきた経緯が伺える。
何故、このような状況になったかは、一人の担当職員が長期に渡り議会事務局の配属となり、議会と住民との隔たりを解消したいとの想いから、様々なアイデアを出し議会改革を進めてきたものである。
一例を挙げますと、取手第二中学校との協同企画では、議会事務局職員と教員との合意形成から、議会の賛同を得て進めた企画であり、当初は手探り状態であったが現在では定期的に開催されている。
内容については、取手市議が取手第二中学校３年生の教室に出向き議会についての授業をし、取手市を住みよくするための提案をまとめる生徒と対話をして、議場で中学生議員がこの提案を採決するまで、協働で行うというものです。
本市も中学校へは、出前講座を行ってはいるが、職業講和のなかでの枠組みのため、取手市のような内容には至っていないのが、実情です。
今後、こういった取組みを参考にして本市の中学生にも、自分達のまちの将来について、考えるきっかけづくりをしていきたいと思います。

２．埼玉県所沢市議会

①議会報告会について
②政策討論会への住民参加の意義について
③みみ丸カフェについて
④議場コンサートの開催について

上記内容について、説明を受けた。

所沢市議会の特徴は、全国的な特徴と同じように議員が先頭にたって議会改革を進めると言うもので、本市市議会と同様の手法です。
市議会の特徴としては、広報広聴委員会を設置し、議会運営委員会と同等の位置づけとして、広報活動を優先的にすることで市民への周知を図っている、その取組みの特徴としてはスポーツ等の各方面で活躍する市民を、議会だよりの表紙に掲載し市民の関心を呼び込むというような、創意工夫を行なっています。
また、市民参加型の取組みとしては、公募によるマスコットキャラクターみみまるの名を冠にした「みみ丸カフェ」でワールドカフェ方式で市民と議員との懇談会を開催している。
市民と議会が同じ目線で話せるよう、議員が仮装するなどしてより身近な存在となるよう努力をしており、その熱意は相当なものだと感じました。
その他にも、議会として様々な取組みを行っていますが、そのベクトルは一定しており、市民の意見を聞きそれを検討し、市民へフィードバックしていくと言う姿勢で、様々なハードルを乗り越え、現在の評価に至っているものと考えます。
本市の議会改革においも、喧々諤々各議員が様々な角度で改革に取組んで来ましたが、住民参加の部分が弱かったため所沢市議会の取組みは、大変参考になるものでした。
本市市議会においても、今後の議会改革についても、失敗を恐れず、まず挑戦するという姿勢で取り組むことが重要だと感じました。

視察の感想　　溝口　浩

①茨城県取手市議会の住民参加の取組について

ワールドカフェ方式を用いた意見交換会を開催され、参加者全員が意見を述べる方式が確立されている店が素晴らしいと思う。

またその延長上で、取手２中との出前講座や議場を使った模擬議会の取組が新鮮で、中学３年生の教育現場に議会との取組が組み込まれた事が興味深く、架空の政党を作り、ワールドカフェ方式で政策提言まで作り上げ、議場でのやり取り等、経験することで、より身近に議会を感じ、生の議会を感じられると思う。本市議会でも教育委員会との協議の上、段階的に実現したいと思った。

②埼玉県所沢市議会の住民参加の取組について

広聴広報委員会として、広聴が優先される事、議会報告会、政策討論会、ワールドカフェ（みみ丸カフェ）等、議会の活動に常に住民参加の枠を設けている事は素晴らしいと思う反面、本市では制限が付くだろうなと思った。みみ丸カフェの取り組みは、議会を特別な存在ではなく、より身近な普段着で話せる場への努力が並大抵ではなく、市民目線が徹底していると感じた。本市議会でもやってみる価値はあると思う。議会だよりのトップページでの写真の載せ方、一般質問の見やすさは今後考えなくてはならないポイント。

議会運営委員会　視察報告書

池辺貢三

日時：平成３０年１月２４日（水）、２５日（木）

・取手市　「議会改革について」

所見

取手市においては、「事務局職員が議員と同じテーブルに座らない市議会に、発展は考えられない」という一言から始まりました。

その取手市は議員と事務局が共に進める「チーム議会」という認識のもと、議会改革に取り組んでいるとの事でした。

議会報告会については第１回から第４回までを試行期間とし、第４回まで実施をした結果、参加者の固定化や参加者の減により一度は終了をした。しかし「議会報告会再開に関する陳情」を採択したことにより改めて再開し、現在までに１６回の開催を行ってきたとの事。

議会報告会を進める中で参加者アンケートの意見として「もっと議員と対話をしたい」という意見が多い事から、第１２回からは意見交換を重視とした議会報告会を実施しているとの事で、そうする事により少しでも参加された方には満足して頂けているとの事。

本市において、議会報告会は実施していないものの、現在実施のしている意見交換会の充実に向けた取り組みになるために、申し込み申請制度ではなく、日時や場所、テーマを設定した意見交換会の取り組みにしていく事も必要ではないかと感じました。

また、取手２中との合同企画については、もともと教職員や校長からの実施に対する反対意見があったが、議会からのアプローチにより社会科公民枠の中で実施に至ったとの事。

模擬議会、模擬投票と様々な手法で取り組む中、授業の実施前と後では、生徒の関心が明らかに変化していることがアンケートを見る事によってうかがえました。

本市においても職業講話による出前講座を実施している事から、議会のことをより知って頂くために、模擬議会や模擬投票の実施などまだまだ改善し実施していく事ができる可能性を感じさせて頂きました。

また、「ワールドカフェ方式を用いた意見交換会」や「来て！見て！知って！取手市議会」と題した議会議場における出前講座など、住民参加に向けた取り組みについて、より充実のしていける本市議会であると確信に至った取手市での視察となりました。

・所沢市　「議会改革について」

所見

「対執行部との緊張関係の保持」「議員間討議」「広報広聴」と３つの柱を軸に議会基本条例の制定、取り組みに至っているとの事。そして、議会力の向上は議員個人の活動では成り立たないという事から始まりました。

議会報告会については、議会運営委員会と同等の権限をもつ広報広聴委員会が立案、実施に至っているとの事。

運営については「多くの市民に発言の機会があるよう運営に配慮する」事から、班での実施をする事によって議会報告会そのものの活性化を図ることができたとの事。
本市においても、意見交換会の実施はしているものの、多くの参加者がありながら全ての方との意見交換にはつながっていない事からも、班単位での実施も視野に入れて今後の意見交換会に反映していく必要があると感じました。
また、政策討論会については、所沢市が以前視察した松本市議会、会津若松市議会では常任委員会単位での政策討論会を実施しているという事から、所沢市についても常任委員会単位で実施をしているとの事。
テーマ設定については常任委員会で合意を得ることが出来たものをテーマにし、政策討論会に切り替えていると言われていました。
これらはあくまで議会基本条例に明記された「政策立案、政策提言を積極的に推進」するためであるとの事。
しかしながら政策討論会についてはまだまだ発展途上であり、政策討論ではなく公開討論会の位置づけに近い形になっているとの事。
まだまだ課題は山積しているが、今後の政策討論会に期待をしたいと感じながらも、本市政策討論会についても、常任委員会単位での実施が方向性も見出せて、結論、提言まで進めることが出来るのではないかと感じました。
また、広報広聴の機能強化の一環として実施されている、みみ丸カフェについては、２０～５０歳代までの市民と議員との懇談会として開催したところ、２６名の参加があったとの事。他には議場コンサートやSNSによる情報発信など、様々な取り組みを実施されているとの事でしたが、何よりも「ランキングを気にしていては改革は進まないと」一言言われていた事がとても印象的で、ランキングはあくまでおまけであって、いかにして住民参加に向けた取り組みの充実を図っていくのかが大事であるという事を感じました。
最後に、会議を無断欠席や遅刻をする議員に対して「反省を求める決議」を実施したという事をお聞きして、本市にとっても市民の手本になるべく議員の品位を守るためには必要な事ではないかと感じました。

※総合的な所見
住民参加のランキングが上位に位置する２市を視察し、権限の持たせた広報広聴委員会の設置が必要ではないかと感じました。
また、訪れた２市ともに議会報告会の実施をしているものの、否定的のように感じ、意見交換会のような形にシフトを変更しているとの事。
本市においては、議会報告会ではなく意見交換会を実施している事から、この手法がベストであると考えながらも、今後はより親しんで頂く事ができるように、申し込み方法のあり方や意見交換会の手法（ワールドカフェ方式やテーマ設定など）など、新たに考えていくことが必要であると考えます。
また、改革を進めていく上で、議会基本条例の見直しも同時に進めることが重要であると感じました。

井阪正信

(所見)

１月２４日　茨城県取手市

取手市では、①議会報告会ワーキングチームの設置に至る経緯、活動状況、その評価について、②議会報告会開催の手続きと住民参加への働きかけについて、③取手２中との合同企画について、初年度の事業評価によって次年度に改善した点、課題、問題点について、④ワールドカフェ方式による意見交換会について、またテーマの選定について、⑤住民参加に係る事業の具体例について、⑥議会便りが充実しているが、編集等はどのようにしているか、等について教示、意見交換をさせていただいた。　特に３点目の取手２中との合同企画については、本市も積極的に取り組んでいくべきだと感じられた。現在、本市では、出前講座として(職業講話)、小津中・誠風中２年生を対象に市議会議員の仕事、議会について話をしているが、各中学２時限２クラスのみなので、今後は総合的な学習の一環としての取り組みを学校側とも協議していく必要があるのではないかと思われる。また、中学生議会などの取り組みもイベント的要素にとどまらず、討論、可決した議案は市民からの政策提言として受け止め、市議会で話し合うなどしている点についても、本市でも参考にすべき点であると思われる。

３点目のワールドカフェ方式(対話による課題抽出)による意見交換会についても、より多くの方との意見交換ができた等、成果について教示いただいた。

１月２５日　埼玉県所沢市

所沢市では、①議会報告会開催について、②みみ丸カフェついて、③議場コンサートを開催するに至った経緯､継続する具体的効果について、④政策討論会への住民参加の意義について、⑤住民参加に係る事業の具体例についてなどを教示、意見交換をさせていただいた。議会報告会については、参加者の同一化について、毎回来られる常連と捉える考え方(常連も必要である)はなるほどと思った。みみ丸カフェについては、早稲田大学と連携して、また議員自らが扮装して和やかな雰囲気づくりをするなどより意見が出やすい環境づくりをした経験談を聞かせていただ

いた。これもワールドカフェ方式を採用したものであり、市民から身近な意見などを聞くことができたとのことであった。また、まず始めることが重要であるとの事であった。これは、まさしくそうであると思った。
また、議場コンサート開催についても、市民参加の一つとしての位置づけとしてはいいのではないかと思われる。
所沢市議会だよりについては、非常に洗練されていると思った、表紙に市内にゆかりのある、様々な分野で輝く人たちを紹介する(表紙全面)など、興味をもち見てもらえるよう、画像を多用するなど様々な工夫がみられた。本市議会たよりも、今後改善・改良を進めていくにあたり本当に参考になった。
また、今後取り組みたいひとつとして、議会モニターを考えているとのことであった。これについては、今後本市も、導入にむけて検討すべきではないかと思われる。
これからの、議会改革にむけて、議会力をつけていくことを議員相互の共通認識として持つべきであると思う。

平成30年2月13日

議会運営委員会行政視察報告　　議会運営委員　高橋　登

視察日程　平成30年1月24日（水）～1月25日（木）

視察先　茨城県取手市
　　埼玉県所沢市

＜所　見＞

今回は、全国の議会改革上位にランキングされている茨城県取手市及び埼玉県所沢市に視察研修させて頂いた。

取手市では、議会事務局長が議論をリードし、議長が議論と疑問点をフォローして頂く形で進められた。冒頭、議会事務局長から今回の視察随行頂いている事務局が、議員の後部座席に座ったことに注文がつけられ、視察メンバーを恐縮させたことには驚かされた。事務局長は、合併以前の藤代町時代からのベテラン局長で、議会事務局と議員は対等でなくてはならない、議員と同列の席に座るべきと言うポリシーがあるようで、「後部席に座るようでは、その議会には伸びしろがない。」とまで言い放ち、議長がしきりに言い訳をするといった光景が印象的でもあった。議会と事務局の関係は、議会改革の課題でありテーマでもあるが、座席で関係性を決定づけられるのはいかがなものか・・・議論にはならなかったが、疑問の残る場面でもあった。しかし、請願、陳情に際しても市民の意見を表明できる機会を設け、会議録の検索システムの充実や議会報告会や市民との意見交換会など市民参加に積極的に取り組んでいる議会の思いと姿勢を窺い知ることができた。

2日目は、50年ぶりの寒波に襲われたと言われる所沢市を訪問させて頂いた。航空機が初めてこの場所から飛び立ったという紹介で始まり、市政施行70周年を迎えるということであった。特に議会改革には積極的に取り組んできており、議員間議論、自由討議等住民の参加を促しながら議会力の向上に努めてきたとの事であった。議会組織機関を生かし、会派を超えての取り組みとして、民俗資料館3か所の設置条例をつくり、平成24年には政策討論会の議論を通じて、住民投票を実施し、全学校にエアコンを設置させてきた成果を紹介して頂いた。

また、市民参加の一環として、「みみ丸カフェ」「議場コンサート」「音まち高齢者大学」「政策提案制度」など等、議会を市民の身近に感じて頂く工夫と施策が実施され、実現されていることに感銘させられるとともに議会の存在感が問われている当議会においても、スケジュール感をもって実践していかなければならない課題であることを改めて感じさせられた研修であった。

H29年度　議会運営委員会　視察報告

委員　田立恵子

（所見）

【1月24日（火）　茨城県取手市議会】

市内中学校と議会との合同企画として、議員と事務局職員による出前講座（第1弾）、生徒による本会議の傍聴（第2弾）、さらに生徒による模擬議会（第3弾）と、連続して系統的に取り組んでこられたことが報告された。

特に第3弾は、「総合的な学習」の時間の一環として「議会を知り・未来を語る」の企画で、選挙で選出された議長のもと、生徒による各会派（グループ）からの提案を審議、市議会との調整も経て可決した議案については中学生議長から市議会議長に提出されたとのこと。単なるパフォーマンスではなく、中学生の目で見た市政、まちづくりへの提言を議会が、真剣に受け止めていることに驚きと感動を覚えた。

本市においても、第4次総合計画の策定のプロセスで、中学生の意見を様々な形で取り入れる試みがされた。ワークショップ、市民フォーラムで堂々と意見を発表する中学生の姿を記憶している。

教育課程の中での位置づけについては、学校現場、教育委員会との充分な調整が必要ではあるが、卒業3年後には有権者となる中学生に「ひとりの市民」として対等に向き合い、その声を現在と将来のまちづくりに生かしていくために、議会が果たせる役割、可能性はまだまだあるのではないかと思えた。

教育・福祉関係の方々との「いじめ防止対策」をテーマにしワールドカフェ方式で行った意見交換会についても報告された。

本市議会でも、これまで重ねてきた団体との意見交換会で、団体の構成員がかなりの人数になったこともあり、そうした場合にはワールドカフェ方式を取り入れることを是非検討するべきではないかと思う。

【1月25日（水）埼玉県所沢市議会】

議会報告会を実施要綱で「年4回開催」と定め、実施している。開催時間2時間のうち、およそ半分を報告に、後半を参加者からの質疑応答、意見交換の時間とされている。定例会の報告を4常任委員会と議会運営委員会の各々から3～5分程度というのは、かなり省略した報告にならざるを得ないことで、十分な理解が得られるのかどうかの疑問はあるが、一方的な報告にとどめずに、市民からの意見を聴取することを重視しているのだろうとも思う。

学ぶべきだと思うのは、参加者から出された意見、要望について、「所管の常任委員会で検討し、検討した結果を回答している」こと（当日の質問に対する回答）。実施要綱の中にも（成果・効果等）として「市行政に対する要望・提言等で重要なものは、議長において取りまとめ市長に文書等で報告するものとする。」と明記している。

これはワールドカフェ方式の懇談会、公募による議会のマスコットキャラクター「みみまる」の名を冠した、みみまるカフェでの参加者の声についても同様の考え方である。

「議会と住民参加」をテーマにした 2 日間の施設で、多くの刺激、学びを得ることができた。

何よりも、市民の声を聴き、聞きっぱなしでなくなく議会として真摯に受け止め検討のテーブルにのせること、いずれにしても検討結果を返していくこと。そうしたプロセスを大切にすることが、真に「市民に開かれた議会」へとつながるのだと思う。

1月24日（水）取手市

1月25日（木）所沢市　行政視察所感

中　谷　　昭

今回の視察において一番に感じた事は、所沢市の議会改革が情報公開している事を基本にしているのは当然であるが、市民を巻き込んで行われていた事であった。特に本市における政策討論会なども、市民の所に出向き、市民の前で開催されていた。本市においても所沢市の様に、市民を巻き込んだ市民目線の議会改革をしていくべきだと思った。

議会運営委員会行政視察　平成30年1月24日(水) ～ 25日(木)

丸谷　正八郎

（所　見）

第1日目(1月24日)取手市議会

1、議会報告会について

報告会を4月～意見交換会に方向転換を行う。住民参加で市民の意見を多く聞く場を持つことで議会との距離を少しでも近づける効果がある。

「ワールドカフェ方式」を採用した意見交換会は大変好評である。

まず初めに対話するテーマや進行上のルール等について説明を行う。

約6名程度のグループ(班)を編成する（各グループに議員が1名参加する）

各班別にテーマを決めて意見交換や協議を行う(15分～20分)

テーブルに議員が残り他はテーブルを移動して、違ったテーマについて話し合う1時間程度で意見交換の結果をテーマ毎に発表する。

意見交換会終了後に担当常任委員会を開催し、これまで取りまとめた委員会の意見に今回の意見を合わせて意見集約の調査を行っている。

このような方式が、最も市民の意見が聞きやすく市議会を身近に感じて頂けると思いました。

2、取手二中と議会の合同企画について

中学校に出向き、3年生の各クラスを対象に議員が実践的な事業を行っている。クラスを5グループに分け市に対して議案提案を考え発表しクラスで採決(投票)して1議案を決定し、後日議場で代表が案件説明を行った後に質疑応答を行い議場で討論・採決（投票）を行う。可決された案件を市議会議長が受け取り所管委員会でしっかりと議論を行うこととなっています。中学生に議会を知って頂くだけでなく市政に関心をもって頂く良い企画と感心させられました。

本市議会で実施している出前講座が更に進化して、このような企画ができれば良いと感じました。

取手市議会の議会改革は、議会事務局が中心となって新しい企画を議長に提案して実施しているところが多くみられた。議会事務局の仕事量が増加している。会場設営やチラシ準備等は全て議員が行っているとの事であった。

本市議会の目指す議会改革の形とは異なるところもあるが、積極的に市民（住民・中学生）と係わっていく姿勢は見習って行きたいと思います。

第2日目(1月25日)所沢市議会

1、広聴広報委員会の設置について

所沢市議会は「広聴広報委員会」を設置し、議会運営委員会と同等の位置づけ

として議会改革の取組みを進めています。
議会報告会や政策討論会に住民が参加して意見交換や議論のしやすい環境を作っています。
市民に親しまれるように市議会のマスコットキャラクター「みみ丸」を誕生させて市議会の催しなどの案内や議会だよりの内容の説明等に登場し市民に分かりやすく語りかけています。議会だよりの表紙も地元で活躍している人物の写真を載せる（カラー）等、市民が関心を持ちやすくして出来るだけ多くの方にご覧いただけるよう編集しています。

所沢市議会は早稲田大学マニフェストランキングで「住民参加」のランキングが上位となっている。住民参加事業の取組みをお聞きしました。
議会報告会開催は年間スケジュールを決定し毎年５月に２回、11 月に２回と合計年間 4 回実施している。
5 月は予算に関する報告のため予算審査委員会メンバーが参加し開催する。
11 月は、常任委員会や会派のバランスを考え「広聴広報委員会」で選出しています。参加人数は余り気にせず継続していくことに努力している。

２、みみ丸カフェ開催について

ワールドカフェスタイルによる市民(住民)と議員との懇談会「みみ丸カフェ」を開催している。

市民から無作為抽出による参加者を募集20歳～50歳までの現役世代を対象に年代別・男女別に抽出しています。早稲田大学との連携協定を活用しファシリテータを教授が行いテーブルホストを学生が務める。
会場の雰囲気を和らげるため会場装飾や狭山茶の提供や議員の仮装など施行を凝らしている。参加者は今までの議会報告会等と違い 20 歳～50 歳までの一般市民が加わり新鮮さもあり賑わいのある楽しい懇談会となっている。
テーマ「所沢市の魅力を発見(再発見)」「さらに魅力のあるまちにするにはどうすればよいか」参加者一人ひとりが必ず意見を言うのが原則のルールとしているため持ち時間を設定しスムーズな進行に気をつけています。

所沢市議会「広聴広報委員会」の議員が視察受入講師となって説明して頂きました。経験上の失敗談も加え現在に至るまでの経緯と成果や課題についてお聞きし質疑応答の中で意見交換が出来ました。

早稲田大学マニフェストランキングの採点方法や判断基準に疑問点もありランキングの順位を意識せずに市民に開かれた身近な議会として住民参加型の事業を展開していくことが本来の議会改革の趣旨ではないかと考えさせられました。泉大津市議会でも住民が参加しやすい意見交換会やワールドカフェスタイルの懇談会を開催するのも必要かと感じました。

議会運営委員会視察　所感　　公明党　村岡　均

泉大津市議会は、市民に開かれた議会を目指し議会改革を行い、議会傍聴呼びかけ隊や意見交換会を実施しているが、更なる充実を図るため、早稲田大学マニフェストランキングで「住民参加」のランキングが上位である取手市議会（茨城県）と所沢市議会（埼玉県）の取組みを調査研究するために1/24～25に視察に行きましたので報告いたします。
1/24（水）取手市議会の「議会改革について」は①議会報告会ワーキングチームの設置に至る経緯、活動状況について　②議会報告会開催の手続きと住民参加への働きかけについて　③取手二中学校との合同企画について　④ワールドカフェ方式による意見交換会について　⑤議会だより「ひびき」について
⑥来て！見て！知って！取手市議会（議会事務局）の出前講座の開催について説明を頂いた。本市議会と比較して思ったことは、ワールドカフェ方式（対話による課題抽出）による意見交換会の開催である。全議員が各グループに分かれて対話することで参加された側も発言しやすくなり、充実した意見交換会になると感じた。終了後のアンケート結果おいても「フラットな感覚でなんでも話せる雰囲気がよかった」「議員の皆さんとの対話はとても充実し、有意義なものでした」等の意見があったとの事です。また、議会だより「ひびき」は新聞折り込みで市民に配布されており、一般質問の編集の工夫、写真やイラストも多く効果的に使用されており、本市においても改善すべきものがあると感じた。そして、「来て！見て！知って！取手市議会」に申し込んだ市民団体への出前講座の内容をお聞きし、本市議会においても、議会事務局による議会施設見学を充実させていかなければならないと思いました。

1/25（木）所沢市議会では「広報広聴の取組み」として　①議会報告会の開催については、多くの市民に発言の機会があるよう配慮すること　②政策討論会への住民参加の意義について　③みみ丸カフェについて　④議場コンサートの開催について、説明を頂いた。関心を持ったのは、「みみ丸」という名前（市民の声を聴く）の議会のマスコットキャラクターをデザインし、HP、市議会だより、議会報告会等のチラシに「みみ丸」を活用し、市民に少しでも議会に関心を持ってもらう工夫をしていることでした。そして、ワールドカフェ方式による市民と議員との懇談会「みみ丸カフェ」を開催し、BGMが流れるカフェのような雰囲気の中で「自分たちのまちのことを考える」取組みは、素晴らしいと思いました。本市議会の意見交換会もさらに充実した取り組みが必要であると感じ、泉大津市議会の議会改革度ランキングを少しずつ上げていかなければならないと思いました。